

世の中では忘年会の季節になりました。この一年の悪かったことは忘れて新しい年を迎えようということですが、忘年する必要はありません。忘れたまま新年を迎えても次はまた一緒です。1年間を乗り越えて、その土台で新しい一年に踏み出すからすばらしい一年になるのです。(マタイ25:31～ ) クリスマス、イエス様を迎える前に1つ考えておかななくてははいけません。私たちの周りにいる人に私たちが何をしているかです。私たちの目の前にいる、困っている人に対してどう行動しているか、そしてそれをお互いにどのようにしているかです。「すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』(マタイ25:40) もっとも小さい者と聞けば、社会的弱者を思い浮かべますが、それだけではなく、その時その時その人が置かれている弱い状態のことを言っているのです。私たちはいつも強いわけでも弱いわけでもありません。しかし、私たちは知れば知るほど、弱いところを理解しようとする気持ち以上に、悪いところに目がつき、排除しようとしてしまうのです。でもイエス様は、そういう弱い人に水いっぱいでも差し出せと言っているのです。イエス様がこの世でしようとしたのは、この世の中でなくなってしまった愛を回復させようとしているのです。困っている人がいて見ぬふりをする行動を改めたかったのです。神様が最初にあなたを作った時の美しい姿に戻したかったのです。傷つけられると傷つきたくないからそういう行動をとれなくなってしまったのです。正しいことであってもその言葉で相手を傷つけてしまい、また、語ってくれたことをマイナスにとってしまうことがあるのです。心の本当のものを見ず、裁きあい、憎しみが生まれるのです。その結果過去には戦争が起こりました。第二次世界大戦のころ、ドイツのナチスを率いるヒトラーはアウシュビッツ強制収容所でユダヤ人を大量に虐殺しました。ヒトラーという人は選挙で選ばれた普通の人です。それまでは敗北の人生を歩んでいた彼が、軍に入り徐々に力をつけ最終的には人殺しをしてしまいました。彼らの考え方の中心にあったのは「合理主義」でした。合理主義とは、生きていくのに邪魔なものは排除するというものです。年寄り、子ども、女など、ナチスから見て、役に立たないと思われる人たちが、理由もなく殺されたのです。自分から見て邪魔なものを殺す、時代はいつもそうです。あなたの過去を振り返って見てください。あなたに対してよくないことを言う人、心ざわしくない行動をとる人を排除しようとしてきたはずです。歴史を知らない人は繰り返してしまいます。あなたは繰り返していませんか。だから忘年ではいけないのです。全ての悪い過去は神様にゆだねれば、ゆるされます。そのうえで、マイナスをプラスに変えてくれる神様に、求めていかななくてははいけません。ナチスのこの行動に対し、自らを犠牲にしてまでも、正しい行動をとった人がたくさんいます。コルベ神父と言う人は、1人のポーランドの兵士が殺されそうになったときに、「自分には妻も子どももいるから何とか殺さないでくれ」と懇願する姿を見て、「自分には妻も子どももないから」と身代わりになりました。またシンドラーと言う人は、自分の私財をなげうって、1人でも多くのユダヤ人を救おうと、自分の私財を投げ打って勇敢にナチスと向き合い、合法的な方法で2000人もの人を自分の工場で雇って救いました。私たちは自分たちの愚かさを知らなくては人を傷つけてしまいます。だから私たちの心の中に光り輝くものを持つ必要があるのです。自分の理解で人は悪くて自分は正しいこういうものを持っていると、究極はこのナチスのような状態です。豊かな人たちは自分を守るために排除しようという観念をもってしまいます。しかしイエス様がこのクリスマスに伝えたかったことはそんなことではありません。彼は王の緋色の服を着て王としてきたのではなく、汚い馬小屋で私たちの心の底辺の汚いところで輝くために来たのです。あなたの心には光がともっていますか。イエス様が心の扉を叩いたときに、「どうぞお入りください」と言えるかどうか考えてください。考えないと繰り返してしまいます。人間がどういうことをし、自分がどういう生き方をしたのか、振り返れば、人々はあなたを傷つけ、そしてあなたも人を傷つけてきたのです。傷を持ったままではきれいに輝けません。これらは私たちに多くの曇りを与えてしまいます。「自分はそうでないから」「他人事だから」そういう状況になってしまっているのです。「水いっぱいでも」ここから実践しなくてははいけません。だから「あの人はこうだから・・・」と言っている場合ではありません。汚い人のために死んだイエス様の愛を学ばなくてははいけません。その人を愛することはイエス様を愛することなのです。困っている人に敵であっても愛しなさいとイエス様は言っているのです。その人についていくのであれば戦いの中で成し遂げていく努力をしなくてははいけません。(マタイ10:38～42) イエス様の十字架に出会ったときに、あなたはもう救われているのです。だから、持っているものの一部でも(水いっぱいでも)差し出さなさいと言っているのです。水いっぱいでもいいのです。「善行は救いの根拠ではなく、証拠である」救われた人は救われているから自然にやるのです。愛された人は愛せるし、赦された人は赦そうとすることができます。あなたのことを本当に愛し、いのちをかけた人がいるのです。このイエス様の愛を受け取るのがクリスマスです。これはただの善行ではなく、犠牲です。あなたのために燃え尽きたのです。だから愛を知った人は、あなたがもてる中で流さなくてははいけません。そして愛を知らない人はぜひ探してください。あなたが持てる水いっぱいを差し出せばあなたを通して多くの人が変わるのです。しかしそれをしなければ歴史はあなたで終わるのです。困っている人に手を差し出すだけでよいのです。イエス様の愛を受け取り水いっぱいを差し出していきましょう。(要約者：岩崎 祥誉)